

(ハ) 確算ナキ戦ハ實施セズ スベキニ非ズ然ルニ今次大戦ノ敗因ハ戰爭指導

戦ハ名譽ヲ面子ヲ以ツテ指導部ニ必勝ノ確算ナクシテマリテ戦以後ヲ強行セル恨アリ
然ラズト言フ人アラバ指導部ハ無能ナリ

ソロモン戦不利ト見タル時何故ニ比島ヲ放棄シテ防備ヲ本土ニ集中セザルヤ
沖繩戦ニ於テ屢々直衝機貧弱ナル時ニハ直衝機皆無ノ特攻隊ヲ注ギ込ミ居タリ

英海軍ハ戰鬪經過ヲ見テモ明カナル如ク夜間攻撃ヲ必ズ月明下ニ集中シ暗夜ニハ精強ヲ以テゲリテ
的ニ攻撃ヲ加ヘタリ對^A攻撃モ徒ニ大遠距離ニ出ス事ナク捕捉ノ確算アル百五〇海里内ニ引寄せテ

全力必中攻撃ヲ待機シ居タリ、或ハ生地ノ險險ナクテ直衝實戦ニ使用シテモ戦力ハ貧弱ナル爲必ズ
現地ニ於テ近距離索敵攻撃ニ〇〇海里程度ヲ二、三回實施セシメタル後沖繩ニ出撃セシメタル結果全

員確算ヲ以テ出撃セリ

兵戦 訓

(イ) 精神力ト訓練

敗戦ノ一因トシテ皇軍軍人精神力教育ニ根本誤謬アリ即チ軍人勸諭ノ「死ハ鴻毛ヨリモ輕ク義ハ山ヨ
リモ重シ」一「上賓ノ命ハ直ニ朕ガ命ト心得ヨ」此ノ勸諭行儀ヲ誤リ部下ニ對スル指揮ニ之ヲ振り續
シ上ニ立ツ者ガ果シテ統帥ノ大權ヲ繼承スル丈ノ職量ヲ涵養セシヤ

特攻ヲ口ニシテ乍ラ果シテ司令部及ビ各隊幹部自ラノ戰爭感ハ如何エ、アレ程ノ若人ヲ殺シ乍ラ終戦
トナリ終戦處理モ考ヘズニ家屬ニ逃ケ歸リシ事實ハ果シテ第五航空艦隊幹部ノミガ軍人精神不充分
ノ者デアツタト誰カ斷言出來ル事口權銳ガ天機部隊ニ集ツテ居タト言ヘヨウ

英海軍部隊ガ特攻ニ反對セシ根本理由ハ

一ツニ若イ搭乗員ノ特攻ノ編制ヲナシ司令、飛行長、隊長ヲ編制ヨリ除キタル點ニアリ

二ツニ特攻隊ハ精神ノ億籤ナレ共戦技訓練ニ關心少キ爲結局ノ勝利者ニ非ズ

軍人ナレバ腕ヲ磨キ精神ヲ涵養スルハ死ニ到ル迄ノ修養ナリ之戦力培養上不可缺ナリ

三ツニ特攻ハ戦機ニ乘ジ臨機必死隊ヲ出スベキモノシテ常用スルハ戦國ノ邪道ナリ

芙蓉隊ハ對機動部隊先制制壓隊ニ對シテ決戦作戦時必死者ノ編制ヘナシアリタリ

人曰ク非鳥戰ノ時ヲ見タル時今ヤ日本ニ資材不足燃料不足搭乗員若干ニシテ從來ノ攻撃ニテハ勝算

ナシ特攻攻撃コソ唯一ノ必勝ノ鍵ナリト

我等ハ其ノ精神ハ採ルベキハ勿論ナレ共上下軍隊死ヲ堪シテ研究訓練スル所何事カ成ラザラン

特攻攻撃ニテ片付ケルハ上層幹部責任逃避ナリ

此所ニ昭和十九年十二月戦闘九〇一飛行隊ヨリ先ズ訓練ニ對スル死闘ガ試ミラレタリ

夜戦隊練成法

(一)夜戦隊練成上ノ難點及ビ執リタル對策

(1)搭乗員ガ未熟ナリ

中練教員、水上機搭乗員及練習航空隊卒業直後ノ十五期七十五期學生ヲ主力トシテ平均飛行時

數百五十時間内至二百五十時間

(2)使用機材轉換ノ爲機屋一二型經驗皆無ノ者バカリ加フルニ當時殺人機ト稱サレタルE.P.「アツク

發動機ニ對シテ夜間使用ヲ企圖セリ、月光製造中止ハ夜戦隊ノ致命傷トモ言フベク實動率一〇%

以下ノアツク發動機タル機屋一二型ヲ採用セシハ當時二一〇型ノ如キ保有機二〇機ニ對シテ實

動機二・三機ノ實狀ヲ見テ何人カ暗指トセン

(3)指導者幹部ナシ

夜戦隊ニハ歴史少ク輕視サレタル爲母隊ガナク戦闘九〇一飛行隊ガ比島ヨリ練成ニ歸リタル時

所屬七五二空トアルモ司令飛行長ハ夜戰ニ無經驗者ニシテ飛行場及機材集收スル隊長自ラノ手ニテセザルヲ得ズ

更ニ二〇三空一三一空ト所屬ヲ變更セシメフレタレド司令ニシテ直接隊員訓練ニ關心ヲ有セシ者一人モナク實戰ニ於テスタ僅ニ關東空司令ガ十五日間第一線ニ於テ指揮官ハ名ノミニシテ此ニ觀場ニ於テ指揮ヲ執ラズ隊員ニシテ司令ノ名前頗ラ知ラザル者大部分ナリ
ヲ執リタルノミ一三一空司令ノ如クハ指揮官

(4) 練成對策

新機材ニ對スル教育ハ整備員、搭乗員共ニ直接會社技手ヲ招キ隊長以下全員熟知スル迄徹底的教育シ地上訓練ハ二月ノ寒夜午前零時起床ニテ夜間整備及地上訓練ヲ強行セリ
一隊員ニ到ル迄衆智ヲ集メ研究會ヲ開キ等級ノ如何ヲ問ハズ新着機ヲ採用シ決定セバ何人ト雖モ實施ス

(二) 練成上ノ着想

(1) 母隊ノ作成教育

練成飛行隊ガ短期教育ニ於テ母隊ナキハ最大ノ支障ナリ此所ニ藤枝基地ヲ夜戰隊母隊ト假想シ司令以下幹部及ビ全乙航空隊員ニ對シテ夜戰隊ノ理解アル隊風ヲ作レリ

(2) 夜間飛行訓練上

(A) 計器飛行ハ長時間ノ練成ナクシテハ自信付カズ故ニ夜間ト雖モ有視界操縦ヲ建前トシ勘ノ養成上テノ對策ヲナス

(4) 日課ヲ夜間訓練日課トシ

食事就寢時間ヲ變更シ平素ト雖モ坐學整備ヲ夜間行ヒ眼ヲ慣ラサス、夜間作業ハ体力消耗甚シ故ニ獻立ヲ變更シ最大「カロリー」ヲ含ム食事ヲ〇六〇〇トス即チ〇〇〇〇起床〇一〇〇

朝食〇六〇〇 晝食一〇〇〇 夕食一六〇〇 夜食トス

(b) 數機ノ訓練ニモ全員參加シ暗夜ニ見學セシム

(B) 航法ハ上層風觀測値ヲ利用シ未熟偵察員及暗夜搭乗員ノ航法負擔ヲ地上ニテ實施シ機上ニテハ輕クセリ即チ必ズ飛行直前測風ヲナシ飛行ハ進前トシテハ三〇〇〇米以上ノ恒風帶ノ飛行ヲ實施セシム 本法ハ沖繩作戰中常用シ圖板ノ整理ハ出發前ニナシ機上ニテハ見張對敵判斷ニ全カヲ注ガシメ機位ヲ失シテ未歸還トナリシハ暗夜戰只一機ノミナリ

(9) 坐學ノ重視

搭乗員ヲシア「練習航線隊以上ニ坐學ノ多イ所」ト囑ゼシメタル程坐學ヲ重視シ思想ノ統一研究心ノ涵養ニ努メタル結果燃料不足ノ折ニテモ一人二〇時間平均ニテ夜間行動一〇〇浬以上ニ全員自信ヲ得タリ

(4) 夜設ハ極力灯火ヲ減少使用セリ

對敵顧慮ノ爲徒ラニ灯火ヲ減少スル傾向ニ對シ英善隊ハ滑走路ニハ二〇個ノ灯火ト見ケタル指導灯ヲ設備シ加フルニ定着帶ハ時ニハ照明セリ之ガ爲若年搭乗員ト雖モ降着ニ對スル不安ヲ軽減セシハ夜間飛行急速練成ノ一因ナリ只シ灯火ハ方向性トナシ對敵顧慮ハ充分行ハリ

(ロ) 整備

零戦九〇% 彗星八〇% 以上ノ實働率保持ノ爲ニハ整備隊長以下純心ニ愛機ノ精神旺盛シ搭乗員教育ニ劣ラズ下級幹部ニ對シ運愛機飛バザルハ整備員ノ恥トナシ

二月末ノ藤枝基地ニテ午後十一時指揮官ガ見廻ツタ時次ノ整備員ノ會話ニテモ知ルベシ

「モウ寝ナイト隊長ニ此ラレルソウシテ明日又零時起シテ横ニナル暇ガナイ」「見付カルトイカンカラ貴様見張シテ居レ、モウ少シテ完備スルンダ」英善隊ハ夜間訓練ハ健康カヲ「モツトウ」ノ下

ニ整備ハ當時二〇〇〇迄ニ片付カナイ者ハ明日實施スル如ク嚴命シアリタリ然シ其ノ整備欲ハ暴風吹キ荒フ如月未徹夜シテ修理セントスル純心ヲ整備員ハ豈一人三人デハナカツタ幹部ハ之ガ爲ドレ程合掌シテ感激セシカハ數知レズ
又着任早々ノ豫備少尉ガ^大電機ノ點檢ヲセズシテ出撃機整備ヲ屬ケタノニ對シテ絶食ノ嚴命ノ下ニ全機七十機ノ二次電池整備ヲ實施セシメ五日間一食モ執ラズニ整備セシ若冠少尉ノ瀕死ハ隊風ヲ感知セシメ大ナルモノアル證據ナリ

(ハ) 士 氣

大東亞戰爭ヲ通ジ皇軍士氣ハ顯著ナル變化ヲナシアリ即チ一段作戦中 (自昭和十六年十二月) 至昭和十七年六月) 全皇軍擊滅ノ氣魄ニ燃エ神州不敗ノ信念ヲ深クシ戰勢ニ捲込マレ

備夫モ勇者トナツタ

二段作戦 (自昭和十七年六月) 至昭和十八年十二月) 六月ミッドウエ^{海戦} (落セド沈メド物量ト科學ノ絶對攻撃ニ出會シ名アル戦士ノ次々ト斃レ行クヲ見テ武人ノ名ヲ惜シム者ハ進ンテ討死シ然ラザル者ハ徒ラナル神州不滅ノ

觀念的護符ニ頼リ自ラ戰局打開ノ氣魄ヲ失ハリ

三段作戦 (自昭和十九年二月) 至昭和二十年二月) 比島^{海戦} 米空軍ノ壓倒的優勢ノ下ニ自衛ノ愚想旺盛シ作戰司令部

又常ニ堅固ナ防空壕ノ中ヨリ机上作戰ヲ強行シ之ガ爲ニ實施部隊ト意志疎通ヲ害シ若年者ハ徒ラニ愚々トシ老練者ハ要領ヨク立廻ル如クナリ遂ニ特攻ニ非ザレバ必中ハ期待シ得ズトナレリ

沖繩作戦

全員特攻ハ指導部ノ掛聲ニシテ特攻隊員ハ大和民族ハ遍カレ早カレ全員玉碎ヲ待ツバカリ死メナラニ思ヒニ特攻デト考フ

日本ノ軍人ニシテ死ネトイワレテ否ト留フ術ハ生レル時カラ知ラズサレド特攻隊ト命名サレタル者ノ生ヘノ執着ハ日ニ日ニ強力トナリ反面ドウニモナク運命ニ「デカタン」的トナリ居タリ

右ノ傾向ハ大勢ノ動キナリ人生レテ誰カ死ヲ欲セン然ルニ日本軍人ハ死ヲ厭フヲ最大ノ罪トサレテ教育サレ信念付ケラレテ居タ、ソレ故ニ修養不徹底カ日淺キ者ハ之ヲ口ニスラ恐レ内心煩悶シ居タル者大多數ナリ此所ニ日本軍人教育ニ誤謬ガアツタ

終戦後ノ皇軍ノ慘タル實ニ物語ル日本大衆ノ聲ガ物語ツテ居ル

此所ニ無理ガアツタ戦ツテモ戦ツテモ生存ヘ武人ノ恥辱デアル所二人トシテ生レタ者ノ根本的矛盾ガアツタ、ソレハ敗ケ戦ヲ考ヘザル日本人ノ理念ノ下ニ樹立サレタ武人道デアツタ

英蓉隊ハ士氣操作ノ根本ヲ右ニ想到シ成算ナキ無理ナ突撃ハ實施セズ即チ戦ハ如何ニシテ多クノ敵ヲ撃滅スルカガ目的ニシテ生死ハ問フ所ニ非ズ此ノ一身ヲ犠牲ニスル事ニ依ツテ他ヲ救フ事ガ出来戦局ヲ打開スル好機ト見レバ欣ンデ死ネル

死シテモ無敵ナ場合ニハ面子モ名モ云云スルナ次ノ攻撃ニ倍ノ働キヲナセ、カクシテ飛行機故障等テ引返ス者ハ皆シテ慰メ迎エタリ

更ニ戦局日二月ニ不利ニシテ勝算アリヤト心配セシ搭乗員ハ明日ノ攻撃ニ我ヲコソト申出ズル者續出シタリソノ場合「死ヌ時ハ未タ^{未タ}敵神州ヲ汚ス時コソ我等輩ツテ死ヌバカリ急ツテ軍人ノ使命ハ此ノ戦ニ勝ツニアル事ヲ忘レルナト教ヘタリ

同一基地ニ在リテ特攻隊員タル西條空搭乗員ガ日々酒ヲ飲ミ寝テ居ル時英蓉隊ハ夜モ並モ坐學ニ地上演習ニ没頭シテ居タ、明ルク笑フ聲ハ特攻隊員ニハ少カツタ、士氣地ニ墜ナタル時ガ終戦ノ時ナリ

二〇年七月デアツタ基地ニ大阪ヨリ慰問團訪レ演藝會ヲ施行シタル際搭乗員ノ観劇ノ表情ヲ注意シタルニ笑ツテ居ル聲ガ空虚デアツタ

指揮官ハ之ヲ見テ暗然トセリ日本ノ餘命幾何モナシ

眞ニ國ヲ思ヒ必勝ノ神機ヲ待ツ搭乗員聞ユモ此ノ頃ヨリ漸ク日本ニ對スル絶望ノ實相ヲ觀破スルニ到
ツタ下士官、兵ニ到ル迄明ルイ表情ガ消エルヤウデハ已ニ全員楠木湊川ノ一戰ヲ嘗ハズ語ラズ覺悟シ
タ時デアル、口先ノ玉碎デハナイ腹ノ底カラ覺悟シタ全隊員ノ最モ雄辨ナル表境デアル

「富高」ニ後退セヨノ司令部ノ命令モ今ハ笑止ナリ基地ニハ爆彈ヲ以テスル空留地雷ノ敷設計畫ガ完
成シター兵ト雖モ後退戦法ハ執ラズ薩南ノ住民ト共ニ敵上陸セバ此ノ基地ニ此ノ愛機ノ整備シタ所ニ
最後ノ「スキツチ」ト共ニ敵ト差違エシ、飛行機隊ハ此ノ時こそ眞ニ勝敗ヲ決スル必中攻撃ヲ以テシ
放ツタ彈ニシテ命中セザレバ全機突入^B制空隊完封ノ黎明先制攻撃ニ辭カニ死期ヲ待ツタノミデア
ル

六 終戦處理

八月十五日、神皇正統記ノ詔勅ハ勳獎ノ中ニ日本ノ實態ヲ拜承セリ

八月十六日・十七日ハ全隊員大和民族救済ノ最後ノ手授ヲ失ヘル者ノセメテモノ饒ケニ敵本土ニ不法上
陸センカ之ト差違エント隊員總意ノ決議ハ定マレリ

八月十八日聖慮未ダ皇土ト民族ノ不滅ヲ信ジ給ヘルヲ承リ雖然トシテ戰闘行爲ノ斷念ヲナス

八月二十一日司令部ヨリ全員ノ休暇ヲ命ゼフレ幹部ノミ終戦處理ノ實ニ任ジ他ハ父母ノ膝下ニ復員セシム
カクア人生最高ノ哲理ヲ体験セン隊員ハ他隊ニ見ル如キ周章狼狽ナル者モナク又不正軍需品ヲ持歸リ者
モナク戦ヒ果シタ者ノ眞ノ叫ビトシテ無駄ナ今後ノ隆平ハ眞平ナリ、アレ程軍隊一致シテ努力シ天下ノ
精銳機隊星一二型零戦岩川藤枝一五〇機ヲ以ツアシテモ大勢ハ如何トモシ得ザリシ者ガ今ハ何ヲカ求メ
ン只々平和的手段ニ依リ皇土皇民ノ將來ヲ祈ルノミ

我等ハ今更ニ國ヲ指導シ何スレゾ人命ヲ害スルガ如キ闘争ヲ再ビ企圖セシヤ

人命ハ尊シ人生ハ無窮ヲ求ム